

国際交流基金 2010年度を 振り返る

国際交流基金は2010年度も、日本の芸術、舞台、出版や映像、生活文化を海外で紹介し、日本語を通して日本に親しみを感ずるための事業や、知的交流や日本を研究する専門家同士の交流など、多くの事業を展開しました。ここでは、それらの事業の一端を写真で紹介します。



日本語教育を支援する→P.20

世界各地に日本語教育の専門家を送り、現地の教育をサポートしています。インドネシアでは中等教育課程で日本語授業が取り入れられており、日本語を学ぶ人が増えています[インドネシア・バリ島]



日本の美術を世界へ

国単位での参加が求められる国際美術展で日本を代表する美術家を紹介しています。2010年度、第14回バンラディシュ・ビエンナーレでは名和晃平氏の展示がグランプリを受賞[バンラディシュ・ダッカ] 撮影：表 恒匡



日本館展示をオーガナイズ

第12回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展では、日本館コミッショナーの北山恒氏のもと、塚本由晴氏と西沢立衛氏が作品を展示。日本の建築界の現在を世界に伝えました 撮影：Andrea Sarti/CAST1466



楽しく日本語に触れる機会を

国際交流基金の海外拠点では、市民が気軽に日本文化に触れられるイベントを開催しています。写真はトロント日本文化センターがマントバで行った日本語体験事業で書道に触れた参加者たち[カナダ・マントバ]



日本独自の舞台芸術を紹介

日本独自のダンススタイル「舞踏」。世界の現代舞踊界に衝撃を与えた舞踏の世界を、2010年度「大駱駝艦天賦典典 ブラジル公演」で、南米の若い世代に伝えました[ブラジル・サンパウロ]



世界の知の交流を活性化

世界に共通する課題を議論する場をつくっています。今年度は国際シンポジウム「ソーシャルファームを中心とした日本と欧州の連携」を東京で開催しました



日本の小説に親しむ→P.36

日本の文学や小説に海外の人が興味をもてるよう活動を展開しています。『世界の中心で、愛をさけぶ』の著者、片山恭一氏が韓国・中国での初の海外講演を行い、サイン会も大盛況でした[中国・北京]



文化を通じて平和へ貢献

国の政治状況等により過酷な体験をし、傷ついた子ども達が世界にはいます。日本でさまざまな知見をもつ専門家を海外に派遣し、子ども達をサポートする「第2回アチェの子供たちと創る演劇ワークショップ」の活動を行っています[インドネシア・アチェ]



日本のロボットは人気者→P.15

「ロボット」は日本の技術力の証であるとともに、日本の文化を物語る存在。生活文化交流の一環として、今年度は産業総合研究所が開発し、福祉の分野で活躍する「あざらし型セラピーロボット パロ」を、ベトナム、シンガポール、ブルネイ、パキスタンで紹介しました。ロボットが人の心を癒す存在となることなど、開発の背景となる考え方とともに、パロの動きが多くの人の心を捉えました[ベトナム・ハノイ]



音を通して分かち合う

「AGA-SHIO + ミュージック&リズムス アフリカ巡回公演」は三味線とピアノの異色デュオと和太鼓と竹楽器の奏者達が織りなすライブ。コンゴ、南アフリカの2カ国で開催し、現地の若者と交流するワークショップも行いました[コンゴ民主共和国・キンシャサ] 撮影：Satoru Shionoya



近隣諸国と互いの文化を語り合う

長い歴史のなかで互いに影響しあい、発展してきた日中韓の3カ国。政治経済のつながりだけではなく、文化という視点から自国と近隣国を見つめ合う機会が「第6回日中韓文化交流フォーラム」です。今年度は、奈良薬師寺(慈恩殿)で本会議が行われました

参加体験型のイベントでより身近に

日本の伝統芸能を伝える公演も積極的に行っています。「日本舞踊 西川箕乃助 シンガポール・マレーシア公演」では来場者も参加できるワークショップも行われました[マレーシア・クアラルンプール] 撮影：Garry Loke Hon Weng

